

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	青年の主張高鍋大会・児童生徒の声を聞く会			基本目標	青少年健全育成活動の充実				
担当課(局)・係	社会教育課	生涯学習係	記入者	三笠 浩三	評価者	中里 祐二	開始年度	H16	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	青少年に社会の一員としての自覚を持たせ責任感を高める。青少年の健全育成に対する町民の理解と関心を深める。							
	対象(誰を・何を)	本町に住所を有する又は町内事業所等に勤務する青少年および町民。							
事業の内容	町内各学校及び事業所等から出場応募者を募り、青少年が日常生活で考えていること、感じていることを広く社会に向けて訴える機会として意見発表会を開催する。								
事業の根拠法令・要綱等		高鍋町青少年問題協議会条例							

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		0千円		25年度予算額		48千円		25年度予算額中一般財源の割合			100%	
支出の内訳		千円	財源内訳	国庫支出金	千円	事業従事者数	H24	0.00	人	H25	0.05	人
		千円		県支出金	千円	職員人件費	H24			0	千円	
		千円		地方債	千円		H25			364	千円	
		千円		一般財源	48	千円	当事業の金銭的成本	H24			0	千円
		千円			千円		(職員人件費+予算(決算)額)	H25			412	千円
補助事業	事業の区分	該当しない			補助事業名							
	補助対象				補助金要綱							
	24年度	補助額	千円	補助の形態		H25年度補助額	千円	終期				
		交付団体の決算額	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
決算額に占める割合		%										
	繰越額	千円										

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	出場者数	事業目的に沿った明確な青少年の主張。意見発表を通して社会参画意識が高まった。									
	2	聴衆者数	青少年の意見を聞く機会の設置。青少年健全育成に対する町民の関心が高まった。									
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	広報活動数	関係団体、町内小中学校への依頼文書の送付。「おしらせたかなべ」による広報等。									
	2	出場者数	関係団体、町内小中学校への出場要請。									
	3	聴衆者数	関係団体、町内小中学校、町民への発表会の開催案内。									

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	出場者数	目標値	10	10	10	平成24年度は、開催を見送り
		実績値	10	0		
		達成率	100.0%	0.0%		
	聴衆者数	目標値	100	100	10	平成24年度は、開催を見送り
		実績値	70	0		
		達成率	70.0%	0.0%		
活動指標	広報活動数	目標値	3	3	3	平成24年度は、開催を見送り
		実績値	3	0		
		達成率	100.0%	0.0%		
	出場者数	目標値	10	10	10	平成24年度は、開催を見送り
		実績値	10	0		
		達成率	100.0%	0.0%		
	聴衆者数	目標値	100	100	100	平成24年度は、開催を見送り
		実績値	70	0		
		達成率	70.0%	0.0%		

事務事業名	青年の主張高鍋大会・児童生徒の声を聞く会	担当課(局)	社会教育課
-------	----------------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数 自己 評価	評価の理由
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	(社)宮崎県青少年育成県民会議が主催する「青少年の主張宮崎県大会」の「青年の部」の参加対象が昨年度から高校生のみとなり、作文募集も県民会議が直接行うこととなることから「児湯地区予選」との位置づけはなくなった。しかしながら青年の意見発表の場として、また社会参画の場として有益であることから事務局としては必要性は高いと考えるが、発表者の応募が少ない点や聴衆者数を考慮すると住民ニーズは高いとは言えず、見直しを要する。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	1	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	0	
	◎事業廃止による影響があるのか	1	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	青少年が社会等に対する意見を自ら考える機会と観衆の前で発表する貴重な機会となっており、出場者には有益と考える。その一方で聴衆者は減少傾向にあることから大会の開催曜日変更や広報活動の強化が必要。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	0	近年、聴衆者が減少傾向にあり、集客面での効果は下がっている。事業所への訪問依頼の徹底ならびに集客性の高い他行事との合同開催等の検討が必要。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	1	可能。
自己評価点		9	

※町補助をしている場合のみ記入

公益 平 性 (公平性)	◎公益性が高いか		
	※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること		
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか		
	◎町民の理解が得られる事業であるか		
合計(最高4点)		0	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見	◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	今後の方向性				
			事業の方向性	廃止	縮小	維持	拡充
		昨年より県の大会での青年の部が高校生のみとなったため、児湯地区予選がなくなった。しかしながら、小中学生の意見にもすばらしいものがあり、社会を考えていく力を養成していくためにも必要な事業であると考え。			○		
			コスト				

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者・聴衆者の確保が課題となっているようである。参加ニーズの把握し、大会の運営を検討する必要あり ・聴取者も少なくやり続けることに疑問を感じる ・どうしてもやるのであれば、他の大会などと共催すべき ・目的意、識が不明、上部団体で実施されていれば町独自でする必要性はないと ・県の大会等が無いのであれば、廃止でも良いと考える。 ・広く町民に聞いてもらう方式に行かなければ、意味がえすれる。 ・事業を継続するには聴衆者の拡充が条件であろう。 ・町主催にこだわる必要はないと思われる。 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	廃止	事業
コスト	廃止	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	成人式			基本目標	青少年健全育成活動の充実				
担当課(局)・係	社会教育課	生涯学習係	記入者	三笠 浩三	評価者	中里 祐二	開始年度	S24	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	新成人となる青年の活力と創造を期待し、祝福することを目的とする。							
	対象(誰を・何を)	新成人							
事業の内容	成人者が大人になったことを自覚する機会を提供し、これからの将来を担う若者に前途の期待と祝福を込めて成人式を実施する。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		232	千円	25年度予算額		322	千円	25年度予算額中一般財源の割合			100	%		
支出の内訳	報償費	51	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24	0.10	人	H25	0.10	人
	需用費	29	千円		県支出金		千円	職員人件費		H24	714			千円
	役務費	152	千円		地方債		千円			H25	727			千円
					千円	一般財源	322	千円	当事業の金銭的成本	H24	946			千円
			千円			千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25	1,049			千円		
補助事業	事業の区分	該当しない				補助事業名								
	補助対象					補助金要綱								
	24年度	補助額		千円	補助の形態		H25年度補助額		千円	終期				
		交付団体の決算額		千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等									
	決算額に占める割合		%											
	繰越額		千円											

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	新成人参加率	対象者全員の参加。									
	2	実行委員数	新成人による式典の企画・運営体制の確立。									
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	会議回数	実行委員会に同席し、企画や予算についてのアドバイスを実施。									
	2	広報活動数	「お知らせたかなべ」による参加申込及び実行委員募集の周知。はがきによる開催通知。									
	3	来賓・関係者への案内	関係団体や事業所等への案内文書の送付。									

◎目標達成状況

指標名		単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	新成人参加率	目標値	190	191	190	
		実績値	170	173		
		達成率	89.5%	90.6%		
	実行委員数	目標値	10	10	10	
		実績値	13	11		
		達成率	130.0%	110.0%		
	目標値					
	実績値					
	達成率					
活動指標	会議回数	目標値	5	5	5	
		実績値	5	6		
		達成率	100.0%	120.0%		
	広報活動数	目標値	4	4	4	
		実績値	4	4		
		達成率	100.0%	100.0%		
来賓・関係者への案内	目標値	240	240	240		
	実績値	240	240			
	達成率	100.0%	100.0%			

事務事業名	成人式	担当課(局)	社会教育課
-------	-----	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数 自己 評価	評価の理由
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	長年に渡り、実施している式典であり、町民の理解、認知度も高く恒例行事として定着している。これからの社会を担う青年を祝福する式典であり、20歳を迎える全員を対象とする式典であることから公共性も高く、町が行うべき事業と考える。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	新成人に大人としての自覚と責任を認識させる機会となっている
	◎すでに目的は達成されていないか	2	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1	新成人を委員とする実行委員会で式典を企画・運営しており、厳粛な内容だけでなく恩師からのビデオレターといった青年が興味を持てる企画も取り入れることにより参加率の向上に寄与している。また、数年前から記念品の配布中止や実行委員会手作りのパンフレットにする等、経費削減に取り組んでいる。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	式典当日は、ガールスカウトや地域婦人連絡協議会に受付及び案内業務等について協力いただいている。
自己評価点		16	

※町補助をしている場合のみ記入

公益性 (公平性)	◎公益性が高いか		
	※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること		
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか		
	◎町民の理解が得られる事業であるか		
合計(最高4点)		0	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	毎年、新成人者の実行委員の募集に苦労しているが、なれば自分たちの成人式を盛り上げようと一生懸命に頑張ってくれている。久しぶりの再会や恩師との連携もあり、この流れを継続していくべきであると考え。	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充				
				維持			○	
	縮小							
	廃止							
			廃止	縮小	維持	拡充		
			コスト					

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人者の実行委員により実施されるのであれば、このまま維持が良いと思われる。 ・実行委員会組織の充実が望まれる。 ・実行委員会が機能すれば現行の形でよい。 	外部評価委員会評価判定欄	
事業		維持	事業
コスト		維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	ガールスカウト運営費補助事業	基本目標	社会教育関係団体の育成強化						
担当課(局)・係	社会教育課	生涯学習係	記入者	三笠 浩三	評価者	中里 祐二	開始年度		年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	学校や家庭ではできない様々な活動体験を通して少女たちに自主創造の精神を身に付けさせる。							
	対象(誰を・何を)	本町の女子児童・生徒(小学校1年生～高校3年生)							
事業の内容	スカウト教育の特徴でもあるパトロールシステムにより、協調・連携の意識高揚を図り、①自己開発、②自然と共に、③人との交わりの3つのポイントによる活動を行うことで、リーダー的立場で視野の広い責任ある行動ができる少女たちを育成する。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		35千円	25年度予算額		35千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%		
支出の内訳	補助金	35千円	財源内訳	国庫支出金		事業従事者数	H24		人		
		千円		県支出金				H24		0千円	
		千円		地方債		職員人件費		H25		0千円	
		千円		一般財源	35千円		当事業の金銭的成本		H24		35千円
		千円			千円			(職員人件費+予算(決算)額)		H25	
補助事業	事業の区分	町単独補助		補助事業名	ガールスカウト運営費補助金						
	補助対象	(社)ガールスカウト日本連盟宮崎県第2団		補助金要綱	高鍋町補助金等の交付に関する規則						
	24年度	補助額	35千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	35千円	終期	平成25年度		
		交付団体の決算額	493千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
		決算額に占める割合	8%								
繰越額		50千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入							
	1	スカウト数	体験学習を通して視野の広いリーダー的立場で行動できる人間形成の基礎づくりができた。							
	2									
	3									
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入							
	1	広報活動	「お知らせたかなべ」への団員募集及びキャンプ参加者募集の掲載。							
	2									
	3									

◎目標達成状況

		指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	スカウト数	目標値	人				
		実績値		24	18		
		達成率		%			
		目標値	%				
		実績値					
		達成率		%			
活動指標	広報活動	目標値	回	2	2	2	
		実績値		2	2		
		達成率		%	100.0%	100.0%	
		目標値	%				
		実績値					
		達成率		%			

事務事業名	ガールスカウト運営費補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	----------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数 自己 評価	評価の理由
妥(必 当 性)	◎目的からして町が行うべきか	2	事業目的が当課の業務である青少年育成事業と共通することや町行事へ積極的に協力している成果等から町補助は必要と考える。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	子どもたちの自主性や協調性の低下が問題となっている現代社会において、有効策となる自己開発活動等に自主的に取り組んでおり、リーダー的立場で責任ある青少年の育成に寄与している。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	主催行事にスカウト以外からの参加を募集する等、組織を超えた活動も実施している。また地域活動にもボランティアとして積極的に参加しており、地域社会への貢献度も高い。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	スカウト以外からの募集を行う行事等を計画・実行している。
自己評価点		16	

※町補助をしている場合のみ記入

公(公 益 平 性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	1	事業目的が当課の業務である青少年育成事業と共通すること。また、事業費の約9割が会費で運営されている点を考慮すると、受益者負担の観点からも公平性は保たれていると考える。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		3	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのよう に事業を進めるべきと考 えているか、等	ガールスカウトは世界的な団体で、青少年育成を目的としている。高鍋町の団員も増えてきている。また、町行事へも積極的に協力していることから、今後も町が補助していくべきと考える。	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充				
				維持			○	
	縮小							
	廃止							
			廃止	縮小	維持	拡充		
			コスト					

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金が終期を迎えるが、次年度以降も必要と考える。 ・積極的な指導者により目的が達成されていると感じる。 ・自助努力も十分しているので、現状維持で良い。 事務局と協議する等して、補助対象経費について見直して欲しい。	外部評価委員会評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町子ども会育成連絡協議会運営費補助事業	基本目標	社会教育関係団体の育成強化						
担当課(局)・係	社会教育課	生涯学習係	記入者	三笠 浩三	評価者	中里 祐二	開始年度		年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	高鍋町子ども会育成連絡協議会の活動支援							
	対象(誰を・何を)	高鍋町子ども会育成連絡協議会							
事業の内容	高鍋町子ども会育成連絡協議会への補助金交付								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		210	千円	25年度予算額		210	千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%			
支出の内訳	補助金	210	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24		人	H25		人
			千円		県支出金		千円		職員人件費		H24		0	千円
			千円		地方債		千円	H25				0	千円	
			千円		一般財源	210	千円	当事業の金銭的成本		H24		210	千円	
			千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)		H25		210	千円	
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	高鍋町子ども会育成連絡協議会運営費補助金								
	補助対象	高鍋町子ども会育成連絡協議会			補助金要綱	高鍋町補助金等の交付に関する規則								
	24年度	補助額	210	千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	210	千円	終期	平成25年度			
		交付団体の決算額	386	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等									
		決算額に占める割合	59	%										
繰越額		29	千円	繰越額が多額となる場合は、返還するよう指導すること。(H22)										

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	高鍋町子ども会育成連絡協議会活動支援	将来を担う子どもの育成支援									
	2											
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	補助金の交付										
	2											
	3											

◎目標達成状況

		指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	高鍋町子ども会育成連絡協議会活動支援	目標値					
		実績値					
		達成率	%				
		目標値					
		実績値					
		達成率	%				
活動指標	補助金の交付	目標値	回	1	1	1	
		実績値		1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%		
		目標値					
		実績値					
		達成率	%				
	目標値						
	実績値						
	達成率	%					

事務事業名	高鍋町子ども会育成連絡協議会運営費補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	-----------------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数 自己 評価	評価の理由
妥(必 当 性)	◎目的からして町が行うべきか	2	当事業は、高鍋町総合計画 第五次基本構想に掲げる「子どもがにぎわうまちづくり」の根幹をなす事業であり、将来を担う子どもたちの健全な育成を目的としていることから町補助は必要と考える。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	少子化の影響や地域活動への関心の低下等により、子ども会の人数も減少傾向にあるが、各行事を通して地域との繋がりがりや世代間交流の機会を創出する当活動の重要度は増しており、子どもたちの社会性や規範意識を培う機会となっている。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1	子ども会活動を通して子どもたちだけでなく、大人たち(保護者等)の地域活動への参加意識も向上が図られている。
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	各種行事において協働の可能性はある。
自己評価点		16	

※町補助をしている場合のみ記入

公(公 益 平 性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	6月28日現在、子どもが少人数の地区等を除く、63地区 合計1,140名と多くの子どもたちが当会に加入している。行事についてもリーダー研修や町レクリエーション大会等多くの地区子ども会が参加できるよう企画されており、公益性は高いと考える。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合 評 価	◎担当者の方針に対する 評価者としての所見 ◎統括者として、どのよう に事業を進めるべきと考 えているか、等	今後の方向性					
		少子化が進む中で、高鍋町の将来を担う子どもたちの社会性や規律意識を培う機会として、地区の子ども会やジュニアリーダー活動は重要である。また、「子どもがにぎわうまちづくり」を進めていく上でも町が補助育成するべと考える。	事業の方向性	拡充			
			維持		○		
縮小							
廃止							
			廃止	縮小	維持	拡充	
		コスト					

事務事業評価 委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・成果・活動指標の検討をお願いしたい。 ・補助金が終期を迎えるが、次年度以降も必要と考える。 ・他自治体の補助対象経費等を比較して適度な補助額の設定をしてほしい。 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町青年団運営費補助事業	基本目標	社会教育関係団体の育成強化						
担当課(局)・係	社会教育課	生涯学習係	記入者	三笠 浩三	評価者	中里 祐二	開始年度		年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	高鍋町青年団連絡協議会の活動支援							
	対象(誰を・何を)	高鍋町青年団連絡協議会							
事業の内容	高鍋町青年団連絡協議会への補助金交付								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		140千円	25年度予算額		120千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%
支出の内訳	補助金	140千円	財源内訳	国庫支出金		事業従事者数	H24		人
		千円		県支出金				H24	
		千円		地方債		職員人件費	H25		0
		千円		一般財源	120千円		当事業の金銭的成本	H24	
		千円				(職員人件費+予算(決算)額)	H25		120
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	高鍋町青年団運営費補助金			
	補助対象	高鍋町青年団連絡協議会			補助金要綱	高鍋町補助金等の交付に関する規則			
	24年度	補助額	140千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	120千円	終期	平成25年度
		交付団体の決算額	261千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等					
		決算額に占める割合	54%						
繰越額		5千円							

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入						
	1	高鍋町青年団連絡協議会活動支援	町内勤労青年の団結促進と明るいまちづくり活動への支援						
	2								
	3								
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入						
	1	補助金の交付							
	2								
	3								

◎目標達成状況

		指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	高鍋町青年団連絡協議会活動支援	目標値					
		実績値					
		達成率	%				
		目標値					
		実績値					
		達成率	%				
活動指標	補助金の交付	目標値	回	1	1	1	
		実績値		1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%		
		目標値					
		実績値					
		達成率	%				

事務事業名	高鍋町青年団運営費補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	---------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数 自己 評価	評価の理由
妥 必 当 性 ()	◎目的からして町が行うべきか	2	青年の地域活動への参加意識が希薄化する中、積極的に町行事等に取り組んでいる。高鍋町の将来を担う勤労青年を地域の指導者として育成していく上で町補助は必要と考える。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有 効 性	◎目標に対して成果は得られているか	2	青年団として町行事や地域活動に積極的に参加。明るいまちづくりに寄与している。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効 率 性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	0	全国的に青年団会員が減少傾向にあるが、前年度の人数を維持している。組織活動においても町子ども会リーダー研修等の催事に積極的に参加している。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1	
協 働 性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	ジュニア・リーダー等との世代間及び地域交流活動を実施している。
自己評価点		14	

※町補助をしている場合のみ記入

公 益 平 性 ()	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	1	町内外の勤労青年12名が加入。青年の社会や地域活動への関心が希薄化する中、積極的に活動する貴重な組織である。地域社会づくりにおける社会教育団体の果たす役割は高いことから引き続き活発な活動が行われるよう支援し、地域の指導者の育成を図る必要がある。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		3	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総 合 評 価	◎担当者の方針に対する 評価者としての所見 ◎統括者として、どのよう に事業を進めるべきと考 えているか、等	青年の地域活動に対する意識が希薄化する中で、青年団会員の地道な活動は光っている。高鍋町の次代を担う青年リーダーの育成のためにも町が補助していくべきものと考え る。	今後の方向性					
			事 業 の 方 向 性	拡充				
				維持			○	
事 業 の 方 向 性	縮小							
	廃止							
			廃止	縮小	維持	拡充		
			コスト					

事務事業評価 委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 補助金が終期を迎えるが、次年度以降も必要と考える。 主体的な活動内容が見えてこない 活動の成果が不明確であるので廃止に向けて縮小でも良いかと考える。 成果指標と活動指標の見直し 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町婦人団体連絡会運営費補助金	基本目標	社会教育関係団体の育成強化						
担当課(局)・係	社会教育課	生涯学習係	記入者	三笠 浩三	評価者	中里 祐二	開始年度		年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	高鍋町婦人団体連絡会の活動支援							
	対象(誰を・何を)	高鍋町婦人団体連絡会							
事業の内容	高鍋町婦人団体連絡会への補助金交付								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		46千円	25年度予算額		46千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%			
支出の内訳	補助金	46千円	財源内訳	国庫支出金		事業従事者数	H24		人			
				県支出金				H24		0	千円	
				地方債		職員人件費		H25		0	千円	
				一般財源	46千円		当事業の金銭的成本		H24		46	千円
										H25		46
						(職員人件費+予算(決算)額)						
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	高鍋町婦人団体連絡会運営費補助金						
	補助対象	高鍋町婦人団体連絡会			補助金要綱	高鍋町補助金等の交付に関する規則						
	24年度	補助額	46千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	46千円	終期	平成25年度			
		交付団体の決算額	85千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
		決算額に占める割合	68%									
繰越額		17千円										

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入							
	1	高鍋町婦人団体連絡会活動支援	町内四婦人団体の連絡体制の確立。共通課題への取組みと地域社会活動及び婦人の地位向上への支援							
	2									
	3									
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入							
	1	補助金の交付								
	2									
	3									

◎目標達成状況

		指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	高鍋町婦人団体連絡会活動支援	目標値					
		実績値					
		達成率	%				
		目標値					
		実績値					
		達成率	%				
活動指標	補助金の交付	目標値	回	1	1	1	
		実績値		1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%		
		目標値					
		実績値					
		達成率	%				
	目標値						
	実績値						
	達成率	%					

事務事業名	高鍋町婦人団体連絡会運営費補助金	担当課(局)	社会教育課
-------	------------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数 自己 評価	評価の理由
妥(必 当性)	◎目的からして町が行うべきか	2	<p>本会は、高鍋町地域婦人連絡協議会、JA児湯高鍋支部女性部、高鍋商工会議所女性会、高鍋町更生保護女性会の役員で構成されており、各団体の目的の共有化ならびに共通の課題解決の場として非常に重要である。各組織の活動も活発で町政及び地域への貢献度も高く、町補助は必要と考える。</p>
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	<p>定例会を定期的に開催し、各団体の連絡調整を行うことにより、協力体制が構築されている。</p>
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	<p>定例会を定期的に開催し、各団体の連絡調整を行うことにより、各団体の活動の効率化が図られている。事業目的が四団体の連携強化となっており、費用対効果を検証するにはすぐわないと考える。</p>
	◎費用対効果が十分に認められるか		
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	1	<p>協働するのは、ほぼ婦団連会員に限定される。</p>
自己評価点		14	

※町補助をしている場合のみ記入

公(公 益平 性)	◎公益性が高いか	2	<p>町内4婦人団体役員で構成されることや地域貢献度を考慮すると公益性は高いと考える。地域における若年層の活動が低下する中で、自主的に活動する組織として重要であり、高齢化が進む組織を存続・活性化させるためにも補助が必要。</p>
	※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること		
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか		
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合 評価	<p>◎担当者の方針に対する評価者としての所見</p> <p>◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等</p>	<p>町内4つの婦人団体役員で構成して共通の問題解決に向けて努力されている。ボランティアなども含めた婦人活動を推進していくためにも継続して町が補助し支えていくべきであると考えている。</p>	今後の方向性					
			事業の方向性	拡充	維持	縮小	廃止	
				廃止	縮小	維持	拡充	
				○				
			コスト					

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金が終期を迎えるが、次年度以降も必要と考える。 ・担当課の方針どおり現状維持が望ましい。 ・町の、各行事に積極的に参加。 ・成果指標と活動指標の見直し ・具体的な活動内容が分かりづらいが、構成団体にその分を上乗せしても、自主運営させてみては如何か。 	外部評価委員会評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町婦人連絡協議会運営費補助金	基本目標	社会教育関係団体の育成強化						
担当課(局)・係	社会教育課	生涯学習係	記入者	三笠 浩三	評価者	中里 祐二	開始年度		年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	高鍋町地域婦人連絡協議会の活動支援							
	対象(誰を・何を)	高鍋町地域婦人連絡協議会							
事業の内容	高鍋町地域婦人連絡協議会への補助金交付								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		100	千円	25年度予算額		100	千円	25年度予算額中一般財源の割合			100	%	
支出の内訳	補助金	100	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24		人	H25	
			千円		県支出金		千円	職員人件費		H24		0	千円
			千円		地方債		千円			H25		0	千円
			千円		一般財源	100	千円	当事業の金銭的コスト	H24		100	千円	
			千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25		100	千円	
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	高鍋町婦人連絡協議会運営費補助金							
	補助対象	高鍋町地域婦人連絡協議会			補助金要綱	高鍋町補助金等の交付に関する規則							
	24年度	補助額	100	千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	100	千円	終期	平成25年度		
		交付団体の決算額	615	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
		決算額に占める割合	17	%	基金が多額の場合は指導を行なうこと。(H22)								
繰越額	24	千円											

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入
	1	高鍋町地域婦人連絡協議会活動支援	婦人の学習意欲の向上と地域振興活動に対する支援
	2		
	3		
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入
	1	補助金の交付	
	2		
	3		

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
			目標値	実績値	達成率	
成果指標	高鍋町地域婦人連絡協議会活動支援	目標値				
		実績値				
		達成率	%			
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
活動指標	補助金の交付	目標値	1	1	1	
		実績値	1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
	目標値					
	実績値					
	達成率	%				

事務事業名	高鍋町婦人連絡協議会運営費補助金	担当課(局)	社会教育課
-------	------------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数 自己 評価	評価の理由
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	<p>本会は、青少年健全育成、ゴミ減量・リサイクル、交通安全運動、子育て支援、在宅福祉の支援ボランティア活動といった町の業務と共通する取組みを実施しており、町政への貢献度の高い団体である。団体の存在意義は高く、町補助は必要と考える。</p>
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	<p>環境問題、青少年問題等山積する様々な課題に対して、地域の女性が積極的に取組みを行うことにより、課題への対応及び地域婦人の組織活動の活性化が図られている。</p>
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	<p>毎月開催されている定例会をはじめリサイクル回収、清掃活動、小学校参観日の託児等、活動量も多く内容も多岐に及んでいることから効率性は高いと考える。</p>
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	1	<p>協働の実施により、活動の活性化及び効率化が見込まれる。</p>
自己評価点		16	

※町補助をしている場合のみ記入

	評価する項目	点数	評価の理由
公平性 (公益性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	<p>前述のとおり公益性の高い活動を実施しており、地域における若年層の活動が低下する中で、本会の存続は必要不可欠と考える。</p>
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価する項目	今後の方向性				
			拡充	維持	縮小	廃止
総合評価	<p>◎担当者の方針に対する評価者としての所見</p> <p>◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等</p>	<p>町行事への積極的な参加、青少年の健全育成など様々な面で地域社会の振興に貢献されている団体である。今後もこれら婦人の力を借りながら、協働していくべしと考える。</p>		○		
		<p>事業の方向性</p> <p>廃止 縮小 維持 拡充</p> <p>コスト</p>				

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金が終期を迎えるが、次年度以降も必要と考える。 ・積極的に活動されていると感じる ・重要な協議会であるので、現状維持でお願いしたい。 <p>増額要望に対しては、どんな事業を実施したいかを示して欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事に積極的に参加している。 	外部評価委員会評価判定欄	
事業	維持	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標と活動指標の見直しが必要。町の行事や各種委員の委嘱など貢献も大きく、補助金額の見直しも必要ではないかと考える。 	事業
コスト	維持	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心な活動ぶりは十分理解できるが、独自事業による資金獲得のノウハウがあるので、現状維持でも活動は可能と思われる。 	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町PTA連絡協議会運営費補助金			基本目標	社会教育関係団体の育成強化			
担当課(局)・係	社会教育課	生涯学習係	記入者	三笠 浩三	評価者	中里 祐二	開始年度	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	高鍋町PTA連絡協議会の活動支援						
	対象(誰を・何を)	高鍋町PTA連絡協議会						
事業の内容	高鍋町PTA連絡協議会への補助金交付							
事業の根拠法令・要綱等								

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		43	千円	25年度予算額		43	千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%	
支出の内訳	補助金	43	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24		人	
			千円		県支出金		千円	職員人件費	H24		0	千円
			千円		地方債		千円		H25		0	千円
			千円		一般財源	43	千円		当事業の金銭的コスト	H24		43
			千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25		43	千円
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	高鍋町PTA連絡協議会運営費補助金						
	補助対象	高鍋町PTA連絡協議会			補助金要綱	高鍋町補助金等の交付に関する規則						
	24年度	補助額	43	千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	43	千円	終期	平成25年度	
		交付団体の決算額	202	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
		決算額に占める割合	23	%	繰越額が多額となる場合は、返還するよう指導すること。(H22)							
繰越額		12	千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入								
	1	高鍋町PTA連絡協議会活動支援	各学校PTA会員の意識高揚と合同事業の推進。教育環境の充実に対する支援								
	2										
	3										
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入								
	1	補助金の交付									
	2										
	3										

◎目標達成状況

		指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	高鍋町PTA連絡協議会活動支援	目標値					
		実績値					
		達成率	%				
		目標値					
		実績値					
		達成率	%				
活動指標	補助金の交付	目標値	回	1	1	1	
		実績値		1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%		
		目標値					
		実績値					
		達成率	%				
	目標値						
	実績値						
	達成率	%					

事務事業名	高鍋町PTA連絡協議会運営費補助金	担当課(局)	社会教育課
-------	-------------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
①(必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	教育基本法第13条に規定する「学校、家庭及び地域住民等の相互協力による教育体制の構築」が県の生涯学習推進重点施策として位置づけられているが、その実現に向けて家庭教育活動や学校支援活動を行うPTA組織は大きな役割を担っている。町内小中学校4PTA組織を統括する本会の活動は、施策の推進上、不可欠であり町補助は必要と考える。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
②(有効性)	◎目標に対して成果は得られているか	0	家庭教育学級との合同研修大会の開催や県PTA連合会研修等への参加を通して、会員の知識向上や会員相互の親睦が図られている。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
③(効率性)	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1	各種研修等参加の際の町マイクロバス活用や毎年1月に開催するPTA研修大会を家庭教育学級と合同開催とする等、経費削減を図っている。
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
④(協働性)	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	協働するのは、ほぼ生徒保護者に限定される。
自己評価点		14	

※町補助をしている場合のみ記入

⑤(公益性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	当会は町内4小中学校PTA会員を主体に組織されており、その活動を支援する事業であることから公益性は高いものと考えらる。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価者としての所見	学校、家庭、地域社会の相互協力による教育体制の構築が大変重要である。今年度からは、コミュニティスクールとも連携を取りながら、よりよい家庭教育や学校支援活動を行うPTA組織活動を支えていくべである。	今後の方向性			
			事業の方向性	廃止	縮小	維持
◎担当者の方針に対する評価者としての所見				○		
◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等						
			コスト			

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金が終期を迎えるが、次年度以降も必要と考える。 ・担当課の方針どおり現状維持が望ましい。 ・上部団体との関連があり、必要な事業。 ・小中学校の連携には必要と理解できるが、成果指標と活動指標の見直しも必要。 	外部評価委員会評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町文化協会運営費補助事業		基本目標	芸術文化活動の充実				
担当課(局)・係	社会教育課	文化係	記入者	小澤 宏之	評価者	中里祐二	開始年度	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	高鍋町文化協会の運営支援						
	対象(誰を・何を)	高鍋町文化協会						
事業の内容	高鍋町文化協会への運営費補助金交付							
事業の根拠法令・要綱等								

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		174	千円	25年度予算額		174	千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%	
支出の内訳	補助金	174	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24		人	
			千円		県支出金		千円	職員人件費	H24		0	千円
			千円		地方債		千円		H25		0	千円
			千円		一般財源	174	千円	当事業の金銭的成本 (職員人件費+予算(決算)額)	H24		174	千円
			千円				千円		H25		174	千円
補助事業	事業の区分	該当しない			補助事業名	高鍋町文化協会運営費補助金						
	補助対象	高鍋町文化協会			補助金要綱	社会教育関係補助金交付規程						
	24年度	補助額	174	千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	174	千円	終期	平成25年度	
		交付団体の決算額	1,804	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
決算額に占める割合		10	%	基金への積立額が多額であるが、理由書が寄せられ、そのままとなった。(H22)								
	繰越額	86	千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入								
	1	高鍋町文化協会活動支援	高鍋町文化協会と構成する文化芸術団体の活動支援								
	2										
	3										
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入								
	1	補助金の交付									
	2										
	3										

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項	
成果指標	高鍋町文化協会活動支援	目標値					
		実績値					
		達成率	%				
			目標値				
			実績値				
			達成率	%			
活動指標	補助金の交付	目標値	1	1			
		実績値	1	1			
		達成率	%	100.0%	100.0%		
			目標値				
			実績値				
			達成率	%			

事務事業名	高鍋町文化協会運営費補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	----------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
必要性 (妥当性)	◎目的からして町が行うべきか	2	・文化協会は、高鍋町民の文化芸術活動を行う団体・個人により構成されている。歴史と文教のまちのなかで、文化芸術を統括する位置にある。町として文化活動の基盤形成の支援を行う必要がある。更に朝倉市との姉妹都市交流においては、永年その主体であり続けている。姉妹都市交流は、町が主体となり実施すべき行事であり、その推進・支援にかかる補助は町の責務である。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	・文化協会は、高鍋町民の文化芸術活動の拠り所であり、町の文化力形成の根幹である。この団体への補助は、町の文化活動推進のための数少ない補助事業である。町からの活動支援により、文化協会は結成41年目の伝統に培われ活動を継続している。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	・文化協会は、高鍋町民の文化芸術活動の拠り所としての伝統をもち、姉妹都市交流の担い手の機能を果たしている。町からの運営費補助の継続による大きな成果である。
	◎費用対効果が充分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	1	・文化協会の活動に対する支援について、町以外の団体等の理解と支援の拡大が望ましい。
自己評価点		16	

※町補助をしている場合のみ記入

公平性 (公益性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	・文化協会に加盟の文化団体や個人は高鍋町民であり、その活動支援は町民への文化活動支援そのものである。町の文化振興は町文化行政の責務であり、継続・拡大すべきである。町芸術文化振興の根幹を成す団体への支援は、町民の利益に直結する。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	見解	今後の方向性				
		事業の方向性	廃止	縮小	維持	拡充
総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	高鍋町文化協会は、町教育委員会と高鍋町総合文化祭を共催するなど、町の文化活動の中核を担う団体である。同協会による文化活動が、町の文化活動の大勢をしめ、姉妹都市交流事業においても交流の中心は同協会であり、これまでの朝倉市との文化交流継続は同協会の活動の成果である。今後も町の補助は継続する必要がある。			○	
		コスト				

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 補助金については交付団体の決算分析を行い検討が必要 運営費、総合文化祭、朝倉市との交流事業など予算の検討が必要 補助金が終期を迎えるが、次年度以降も上記を勘案し、要検討 目的があると思うが基金を保有されている、助成金がなくても運営は可能と考える。姉妹都市交流等の工夫が必要。 事業としては継続が望ましい。パンフ販売分の自主財源を補助金で見るとは難しいので、コストも維持が望ましい。 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋史友会補助事業		基本目標	文化財の保護と活用				
担当課(局)・係	社会教育課	文化係	記入者	小澤 宏之	評価者	中里祐二	開始年度	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	高鍋史友会の支援補助						
	対象(誰を・何を)	高鍋史友会						
事業の内容	高鍋史友会への補助金交付							
事業の根拠法令・要綱等								

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額	28千円	25年度予算額	28千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%				
支出の内訳	補助金	28千円	財源内訳	国庫支出金	千円	事業従事者数	H24	人	H25	人	
		千円		県支出金	千円	職員人件費		H24		0	千円
		千円		地方債	千円			H25		0	千円
		千円		一般財源	28千円	当事業の金銭的成本 (職員人件費+予算(決算)額)		H24		28	千円
		千円			千円			H25		28	千円
補助事業	事業の区分	該当しない		補助事業名	高鍋史友会補助金						
	補助対象	高鍋史友会		補助金要綱	社会教育関係補助金交付規程						
	24年度	補助額	28千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	28千円	終期	平成25年度		
		交付団体の決算額	230千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
決算額に占める割合		12%									
	繰越額	0千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入						
	1	高鍋史友会活動支援	高鍋史友会への活動支援						
	2								
	3								
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入						
	1	補助金の交付							
	2								
	3								

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	高鍋史友会活動支援	目標値				
		実績値				
		達成率	%			
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
活動指標	補助金の交付	目標値	1	1		
		実績値	1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	鳴野棒踊り補助事業			基本目標	文化財の保護と活用			
担当課(局)・係	社会教育課	文化係	記入者	小澤 宏之	評価者	中里祐二	開始年度	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	鳴野棒踊りの活動支援						
	対象(誰を・何を)	鳴野棒踊り保存会						
事業の内容	鳴野棒踊り保存会への補助金交付							
事業の根拠法令・要綱等								

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		57	千円	25年度予算額		57	千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%	
支出の内訳	補助金	57	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24		人	
			千円		県支出金		千円	職員人件費	H24		0	千円
			千円		地方債		千円		H25		0	千円
			千円		一般財源	57	千円	当事業の金銭的成本	H24		57	千円
			千円			千円		(職員人件費+予算(決算)額)	H25		57	千円
補助事業	事業の区分	該当しない			補助事業名	鳴野棒踊り補助金						
	補助対象	鳴野棒踊り保存会			補助金要綱	社会教育関係補助金交付規程						
	24年度	補助額	57	千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	57	千円	終期	平成25年度	
		交付団体の決算額	67	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等							
決算額に占める割合		89	%									
	繰越額	3	千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入								
	1	鳴野棒踊り保存会活動支援	町指定無形民俗文化財「鳴野棒踊り」の保存伝承活動への支援								
	2										
	3										
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入								
	1	補助金の交付									
	2										
	3										

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	鳴野棒踊り保存会活動支援	目標値				
		実績値				
		達成率	%			
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
活動指標	補助金の交付	目標値	1	1		
		実績値	1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

事務事業名	鳴野棒踊り補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	-----------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数		評価の理由
		自己評価		
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2		・町が町無形民俗文化財に指定している『鳴野棒踊り』を保護・継承を目的として活動する団体に対して、町が活動支援のための補助金を交付することは、極めて妥当である。町指定文化財を保護・継承することは、町文化財保護部局の責務である。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2		
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2		
	◎事業廃止による影響があるのか	2		
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2		・町指定無形民俗文化財「鳴野棒踊り」が伝わる鳴野地区の住民による団体であり、旧来の姿で良好に「鳴野棒踊り」を保護・継承している。当文化財の保護にあたる唯一の団体であり、支援の効果は大きい。
	◎すでに目的は達成されていないか			
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2		・町指定無形民俗文化財「鳴野棒踊り」が伝わる鳴野地区の住民による団体であり、旧来の姿で良好に「鳴野棒踊り」を保護・継承している。町からの同会への支援により後継者の育成も良好におこなわれている。
	◎費用対効果が十分に認められるか	2		
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	1		・当文化財の保護活動への支援補助について、町以外の団体の理解が得られると望ましい。
自己評価点		15		

※町補助をしている場合のみ記入

公益 平 性	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	・町指定無形民俗文化財「鳴野棒踊り」は郷土に伝わる伝統芸能であり、これを保護継承することは町の責務である。文化財は郷土の宝であり、その保護は町民に有益である。民俗文化財の保護は古(いこしえ)より伝わる地域の人々により継承される事が理想である。これを維持している団体への支援補助こそが町の果たすべき機能である。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	高鍋町指定無形民俗文化財の鳴野棒踊りの保護と継承活動を行なっている団体である。町内外における文化交流・地域振興事業において公演するなど、町の伝統文化の啓発に貢献している。 郷土の文化財保護伝承のため、同会の活動を補助し支援を継続すべきであるとする。	今後の方向性				
			事業の方向性	拡充	維持	縮小	廃止
				○			
			廃止	縮小	維持	拡充	コスト

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 補助金が終期を迎えるが、次年度以降も必要と考える。 文化財の保護に係るものであるため、対象外で良いと思われる。 補助額については、ほぼ実費負担の補助であるので予算査定の場合で十分と考える。 成果指標と活動指標の見直し 踊り手を確保し、活動を活発化していただきたい。 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	古墳を守る会補助事業			基本目標	文化財の保護と活用			
担当課(局)・係	社会教育課	文化係	記入者	小澤 宏之	評価者	中里祐二	開始年度	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	高鍋町古墳を守る会の活動支援						
	対象(誰を・何を)	高鍋町古墳を守る会						
事業の内容	高鍋町古墳を守る会への補助金交付							
事業の根拠法令・要綱等								

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		65千円	25年度予算額		65千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%	
支出の内訳	補助金	65千円	財源内訳	国庫支出金	千円	事業従事者数	H24	人	H25	人
		千円		県支出金	千円	職員人件費	H24		0	千円
		千円		地方債	千円		H25		0	千円
		千円		一般財源	65千円	当事業の金銭的成本 (職員人件費+予算(決算)額)	H24		65	千円
		千円			千円		H25		65	千円
補助事業	事業の区分	該当しない			補助事業名	古墳を守る会補助金				
	補助対象	高鍋町古墳を守る会			補助金要綱	社会教育関係補助金交付規程				
	24年度	補助額	65千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	65千円	終期	平成25年度	
		交付団体の決算額	537千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等						
決算額に占める割合		12%	※将来的には観光協会から助成する可能性があるとのこと。(H22)							
	繰越額	2千円								

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入							
	1	古墳を守る会活動支援	町内所在の古墳群の維持管理と保護継承に対する支援							
	2									
	3									
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入							
	1	補助金の交付								
	2									
	3									

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	古墳を守る会活動支援	目標値				
		実績値				
		達成率	%			
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
活動指標	補助金の交付	目標値	1	1		
		実績値	1	1		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

事務事業名	古墳を守る会補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	・古墳を守る会事業は、町内所在の古墳群の保護であり、この業務は町文化財保護担当部署が責任を持って行うべき事業である。この業務内容を会の事業として活動する同会への補助金交付は不可欠である。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	・古墳を守る会事業は、持田古墳群の草刈作業をはじめ、町内所在の各々の古墳群の草刈活動支援を行っている。同会の活動は、町内の文化財保護活動としては最大規模である。同会の補助金交付は極めて大きな効果がある。
	◎すでに目的は達成されていないか		
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	・高鍋町からの補助金額で、町内の全古墳群の草刈作業の実施は極めて困難である。高鍋町の文化財保護行政は、古墳群の維持管理のほとんどを同会の活動に依存している
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	・古墳を守る会活動に賛同する地元住民やボランティアが古墳草刈作業に多数参加している。
自己評価点		16	

※町補助をしている場合のみ記入

公益 平 性	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	・古墳を守る会が活動対象としている古墳は、町内に所在する文化財であり、本来は町文化財保護部局の直営で実施すべき事業である。古墳を守る会の事業の対象は、町民の歴史財産でありその受益者は町民である。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合 評 価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	持田古墳群をはじめ町内の古墳所在の各公民館が、古墳草刈り活動を継続している。本来、文化財の管理は、町文化財保護行政の責務であるが、永年、奉仕による活動に頼っている。この活動に相当する内容を町費で対応する場合、より多額の経費を必要とすることから今後も協働して管理を実施するためにも継続して補助すべきと考える。	今後の方向性			
			事業の方向性	拡充	維持	縮小
			○			
			廃止	縮小	維持	拡充
			コスト			

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金が終期を迎えるが、廃止でも良いと考える。 ・ボランティアによって守られていることは感じる ・担当課の方針どおり現状維持が望ましい。 ・成果指標と活動指標の見直し 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	姉妹都市文化交流補助事業			基本目標	芸術文化活動の充実		
担当課(局)・係	社会教育課	文化係	記入者	小澤 宏之	評価者	開始年度	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	姉妹都市(朝倉市)との文化交流支援補助					
	対象(誰を・何を)	姉妹都市文化交流実行委員会					
事業の内容	姉妹都市文化交流実行委員会への文化交流支援補助金交付						
事業の根拠法令・要綱等							

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		0千円	25年度予算額		800千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%	
支出の内訳	補助金	0千円	財源内訳	国庫支出金	千円	事業従事者数	H24	人	H25	人
		千円		県支出金	千円	職員人件費		H24	0	千円
		千円		地方債	千円			H25	0	千円
		千円		一般財源	800千円	当事業の金銭的成本 (職員人件費+予算(決算)額)		H24	0	千円
		千円			千円			H25	800	千円
補助事業	事業の区分	該当しない			補助事業名	姉妹都市文化交流補助金				
	補助対象	姉妹都市文化交流実行委員会			補助金要綱	社会教育関係補助金交付規程				
	24年度	補助額	0千円	補助の形態	奨励的補助	H25年度補助額	0千円	終期	平成25年度	
		交付団体の決算額	0千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等						
決算額に占める割合		#DIV/0!	%							
	繰越額	0千円								

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入							
	1	交流事業の開催	交流事業開催による、姉妹都市との文化交流機会を与える							
	2									
	3									
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入							
	1	補助金の交付								
	2									
	3									

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	交流事業の開催	目標値				
		実績値				
		達成率	%			
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
活動指標	補助金の交付	目標値	回	1	1	
		実績値	回	1	1	
		達成率	%	100.0%	100.0%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

事務事業名	姉妹都市文化交流補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	--------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数 自己 評価	評価の理由
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	・姉妹都市文化交流実行委員会は高鍋町と高鍋町文化協会役員により構成されている。福岡県朝倉市との文化交流は、町が主体となり実施すべき行事であり、支援にかかる補助は町の責務である。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	・姉妹都市文化交流は朝倉市の文化団体が来町される年に補助事業を実施している。町からの活動支援により継続して行っている。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	・姉妹都市文化交流は、高鍋町と朝倉市の文化交流を20年以上も継続しており、高鍋町の文化向上にも寄与している。町からの活動支援の大きな成果である。
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	1	・姉妹都市文化交流の活動に対する支援について、町以外の団体等の理解と支援の拡大が望ましい。
自己評価点		16	

※町補助をしている場合のみ記入

	評価する項目	点数	評価の理由
公平性 (公益性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	・姉妹都市文化交流と高鍋町の文化の向上に寄与している。これからも継続して文化交流を実施する必要はある。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価する項目	今後の方向性	今後の方向性				
			事業の方向性	コスト	維持	拡充	
総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見	朝倉市との姉妹都市交流は、秋月藩の歴史的背景をもとに甘木市時代から永年続けられており、今後も市民レベルでの文化交流は継続してべきと考える。	拡充				
	◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等		維持		○		
			縮小				
			廃止				
				廃止	縮小	維持	拡充

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 補助終期の設定について検討が必要 指標の見直しを要す 指標設定が困難であれば対象外 文化協会運営補助との関係を検討 交流の在り方についての検討工夫が必要では 3年終期では不都合があるので、見直し周期の見直しを行うべき(5or10年) 姉妹都市の交流としての行事として決定事項。 成果指標と活動指標の見直し 交流回数を減らすなどして、長期的な経費を圧縮することを検討しては。 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町体育協会補助事業			基本目標	生涯スポーツの振興				
担当課(局)・係	社会教育課	社会体育係	記入者	濱本 明俊	評価者	中里 祐二	開始年度	S40	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	町民のスポーツ振興、生涯スポーツの推進							
	対象(誰を・何を)	町民							
事業の内容	高鍋町体育協会に加盟している22競技団体が、町民のスポーツ振興、生涯スポーツの推進及び健康増進を目的とし各大会に参加するなど事業を展開している。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		899	千円	25年度予算額		974	千円	25年度予算額中一般財源の割合			100	%		
支出の内訳	負担金補助交付金	899	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24	0.24	人	H25	0.24	人
			千円		県支出金		千円	職員人件費	H24			1,715	千円	
			千円		地方債		千円		H25			1,746	千円	
			千円		一般財源	974	千円		当事業の金銭的成本	H24			2,614	千円
			千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25			2,720	千円	
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	高鍋町体育協会補助金								
	補助対象	高鍋町体育協会			補助金要綱	補助金等の交付に関する規則								
	24年度	補助額	580	千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	580	千円	終期	平成25年度			
		交付団体の決算額	729	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等									
		決算額に占める割合	86	%										
繰越額		52	千円											

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入	
	1		
	2		
	3		
活動指標	活動指標名	この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入	
	1		
	2		
	3		

◎目標達成状況

成果指標	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
		目標値				
		実績値				
	達成率	%				
	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
		目標値				
		実績値				
	達成率	%				
	活動指標	指標名	単位	23年度	24年度	25年度
目標値						
実績値						
達成率	%					
活動指標	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
		目標値				
		実績値				
達成率	%					

事務事業名	高鍋町体育協会補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	-------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	高鍋町体育協会は、スポーツの振興と生涯スポーツの推進を図るとともに、町民の健康増進や厚生を図ることを目的にしている。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	平成24年度において、1,473人の町民が体育協会加盟競技団体に登録しており、町民の健康増進・体力向上並びにスポーツ振興に繋がっている。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1	現在加盟している22競技団体が、それぞれ大会への参加、大会の主催・競技運営、技術指導・講習等、幅広く活動を展開している。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	町民のスポーツ振興と生涯スポーツ推進を図るため、更に高鍋町体育協会と協働していく必要がある。
自己評価点		15	

※町補助をしている場合のみ記入

公益性 (公平性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	町民のスポーツ振興と生涯スポーツの推進、健康増進を目的とした団体の補助であり公益性がある。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	町民のスポーツ振興と生涯スポーツの推進、健康増進を考える上で、組織された高鍋町体育協会及び加盟競技団体は必要不可欠である。 加盟している競技団体が、それぞれ大会への参加、大会の主催・競技運営、技術指導・講習等、幅広く活動を展開している。その活動を支援するためにも補助は必要と考える。	今後の方向性																											
			事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充					維持			○		縮小					廃止					<table border="1"> <tr> <td>廃止</td> <td>縮小</td> <td>維持</td> <td>拡充</td> </tr> <tr> <td colspan="4">コスト</td> </tr> </table>	廃止	縮小	維持	拡充	コスト
拡充																														
維持			○																											
縮小																														
廃止																														
廃止	縮小	維持	拡充																											
コスト																														

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・事業評価として指標の設定が必要ではないか ・補助金が終期を迎えるが、次年度以降も必要と考える。 ・担当課の方針どおり維持が望ましい。 ・成果指標と活動指標の見直し 	外部評価委員会評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町スポーツ少年団補助事業		基本目標	生涯スポーツの振興					
担当課(局)・係	社会教育課	社会体育係	記入者	濱本 明俊	評価者	中里 祐二	開始年度	S44	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	スポーツ等を通して青少年の心身の健全育成、体力向上に資する。							
	対象(誰を・何を)	町内の小中学生(町外者も場合により可)							
事業の内容	高鍋町スポーツ少年団に加盟している21競技団体(単位団)が、スポーツ等を通して青少年の心身を鍛錬し、体力を高め、人間性豊かなよき社会人となるよう、育成指導し、もって青少年の心身の健全育成に資することを目的とする。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		230	千円	25年度予算額		230	千円	25年度予算額中一般財源の割合				100	%	
支出の内訳	負担金補助交付金	230	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24	0.85	人	H25	0.85	人
			千円		県支出金		千円	職員人件費	H24				6,072	千円
			千円		地方債		千円		H25				6,183	千円
			千円		一般財源	230	千円		当事業の金銭的成本	H24				6,302
			千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25				6,413	千円
補助事業	事業の区分	町単独補助			補助事業名	スポーツ少年団補助金								
	補助対象	高鍋町スポーツ少年団			補助金要綱	補助金等の交付に関する規則								
	24年度	補助額	230	千円	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	230	千円	終期	平成25年度			
		交付団体の決算額	746	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等									
		決算額に占める割合	32	%										
繰越額		20	千円											

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	登録人数増	多くの子ども達に、スポーツ等を通して心身の健全育成、体力向上の機会を与えることができた。									
	2											
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	広報活動(募集)	お知らせ高鍋への少年団募集の掲載、小中学校への少年団募集案内配布を行うことができた。									
	2											
	3											

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
			目標値	400	400	
成果指標	登録人数増	実績値	443	413		
		達成率	%	110.8%	103.3%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
		目標値				
活動指標	広報活動(募集)	目標値	3	3	3	
		実績値	3	3		
		達成率	%	100.0%	100.0%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

事務事業名	高鍋町スポーツ少年団補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	----------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	高鍋町スポーツ少年団は、スポーツ等を通して青少年の心身の健全育成、体力向上に資することを目的にしている。 スポーツ少年団の活性化を図るため、教育委員会と共に、育成会・指導者・スポーツ推進委員の協力を得ながら団活動を行うことが必要である。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	例年、400人を超える子どもたちが高鍋町スポーツ少年団に登録しており、団員の心身の健全育成・体力向上に繋がっている。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	現在加盟している21単位団が、それぞれ指導者による技術指導(練習)及び大会への参加を行い、また、町本部による指導者・育成会を対象とした講習会を開催するなど、幅広く活動を展開している。
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	青少年の心身の健全育成、体力向上を図るため、更に高鍋町スポーツ少年団と協働していく必要がある。
自己評価点		17	

※町補助をしている場合のみ記入

公益 平 性 (公益性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	青少年の心身の健全育成、体力向上を目的としたスポーツ団体への補助であり公益性がある。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価する項目	今後の方向性																									
			事業の方向性																								
総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見	スポーツ少年団は、小学生から心身の健全な育成、体力の向上を図る上で、これまでも大きく貢献している。その活動を支援していくために補助は必要と考える。																									
	◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等																										
		<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5">コスト</td> </tr> </table>	拡充					維持		○			縮小					廃止					コスト				
拡充																											
維持		○																									
縮小																											
廃止																											
コスト																											

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 補助金が終期を迎えるが、次年度以降も必要と考える。 担当課の方針どおり維持が望ましい。 事業の内容と成果を、しっかり出していくことが必要。 成果指標と活動指標の見直し 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	児湯郡町村対抗駅伝競走大会補助 事業		基本目標	スポーツランドの推進					
担当課(局)・係	社会教育課	社会体育係	記入者	濱本 明俊	評価者	中里 祐二	開始年度	S32	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	郡内の体育スポーツの振興と郡民の親睦融和を図り、明るく豊かな郷土づくりに寄与すること。							
	対象(誰を・何を)	児湯郡内町民							
事業の内容	児湯郡内で開催する児湯郡内町村対抗による駅伝競走大会								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額	0千円	25年度予算額	16千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%	
支出の内訳	負担金補助交付金	0千円	国庫支出金		事業従事者数	H24	0.02人	
		千円	県支出金		職員人件費	H24	143千円	
		千円	地方債			H25	145千円	
		千円	一般財源	16千円	当事業の金銭的成本 (職員人件費+予算(決算)額)	H24	143千円	
		千円		千円		H25	161千円	
補助事業	事業の区分	該当しない		補助事業名	町村対抗駅伝大会出場補助金			
	補助対象	高鍋走ろう会		補助金要綱	補助金等の交付に関する規則			
	24年度	補助額	0千円	補助の形態	奨励的補助	H25年度補助額	16千円	終期 平成25年度
		交付団体の決算額	0千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等				
決算額に占める割合		#DIV/0!	%					
	繰越額	0千円						

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入				
	1	大会成績	優勝を目指し、「高鍋走ろう会」が中心となって取りみ、高鍋町の代表としてレースに臨んでいる				
	2						
	3						
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入				
	1	練習					
	2						
	3						

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	大会成績	目標値	1	1	1	24年度については、実施されなかった。
		実績値	7チーム中2位	なし		
		達成率	%			
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
活動指標	練習	目標値	—	—		
		実績値	—	—		
		達成率	%			
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

事務事業名	児湯郡町村対抗駅伝競走大会補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	-------------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数 自己 評価	評価の理由
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	平成23年度までは、児湯郡体育協会が主催し、体育スポーツの振興と郡民の親睦融和を図り、明るく豊かな郷土づくりに寄与する目的で実施された。 (平成24年度以降は、児湯郡陸上協会が主催し行われることとなった。)
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適応しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	各チーム、町村の代表として熱戦を繰り広げ、郡内のスポーツ振興につながっている。
	◎すでに目的は達成されていないか	2	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	郡内の各町村陸上競技団体が、大会に向けての練習、技術指導、大会競技運営等、幅広く活動を展開している。
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	郡内の陸上競技団体と各町村体育協会が大会を成功させるために協働していく必要がある。
自己評価点		18	

※町補助をしている場合のみ記入

公平性 (公益性)	◎公益性が高いか		
	※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること		
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか		
	◎町民の理解が得られる事業であるか		
合計(最高4点)		0	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	高鍋町民のスポーツ振興、競技力向上のために必要な補助と考える。	今後の方向性																											
			事業の方向性	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	拡充					維持			○		縮小					廃止					<table border="1"> <tr> <td>廃止</td> <td>縮小</td> <td>維持</td> <td>拡充</td> </tr> <tr> <td colspan="4">コスト</td> </tr> </table>	廃止	縮小	維持	拡充	コスト
拡充																														
維持			○																											
縮小																														
廃止																														
廃止	縮小	維持	拡充																											
コスト																														

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業として全面的に見直しが必要。 補助金として拠出しなくても良いのではないか。 大会が確定後、再度、補助の方法等を検討する 明確な目的設定を 今年度の開催が決まったら、補助のあり方も見直すべき 大会出場補助金として出せば、補助の内容等要検討。 町代表として出場してもらうのに補助金額は如何と思う。、補助金額の見直し若しくは支出科目を検討し、改善すべきではないか。 運営サイドの意向が固まれば、見直しの必要あり。 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	廃止	事業
コスト	廃止	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	全九州高校バドミントン高鍋大会補助事業		基本目標	スポーツランドの推進					
担当課(局)・係	社会教育課	社会体育係	記入者	濱本 明俊	評価者	中里 祐二	開始年度	H13	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	大会誘致							
	対象(誰を・何を)	九州各県高等学校バドミントン大会(団体戦)男女上位チーム(2チーム)(全国大会出場除く)							
事業の内容	九州各県の県大会で成績上位チーム(2チーム)(全国大会出場チームを除く)が参加し、団体戦を行う。高鍋町内に宿泊する団体が多く、運営補助としてバドミントン協会に交付する。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額	300	千円	25年度予算額	300	千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%			
支出の内訳	負担金補助交付金	300	財源内訳	国庫支出金		事業従事者数	H24	0.03	人	H25	0.03	人
		千円		県支出金		職員人件費	H24			214	千円	
		千円		地方債			H25			218	千円	
		千円		一般財源	300	千円	当事業の金銭的成本	H24			514	千円
		千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25			518	千円
補助事業	事業の区分	町単独補助		補助事業名	全九州高等学校バドミントン高鍋大会補助金							
	補助対象	宮崎県高等学校体育連盟バドミントン専門部		補助金要綱	補助金等の交付に関する規則							
	24年度	補助額	300	補助の形態	運営費補助	H25年度補助額	300	千円	終期	平成25年度		
		交付団体の決算額	524	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
	決算額に占める割合	57	%									
	繰越額	0	千円									

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	継続誘致	宿泊等経済効果が高いため、今後も継続して誘致していく									
	2											
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	観光協会等との連携	継続して誘致していくために、町観光協会等からの支援を検討。また地場産品の照会等ができないか協議を行う。									
	2											
	3											

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
			目標値	実施	実施	
成果指標	継続誘致	目標値				
		実績値				
		達成率	%			
	目標値					
	実績値					
	達成率	%				
活動指標	観光協会等との連携	目標値	1	1	1	
		実績値	1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	目標値					
	実績値					
	達成率	%				

事務事業名	全九州高校バドミントン高鍋大会補助事業	担当課(局)	社会教育課
-------	---------------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	本町が誘致した大会であり、今大会を本町で開催することにより宿泊等経済効果を生んでいる。継続して本町で開催していくことが妥当であると考えます。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	町内に約300人程度が宿泊しており、これからも継続して誘致していくことで、経済効果を生んでいる。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	町内に約300人程度が宿泊しており、経済効果を生んでいる。これからの継続して誘致していくことが必要である。
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	今後も継続して誘致していく為に、町観光協会等と協働していく必要がある。
自己評価点		17	

※町補助をしている場合のみ記入

公益 平 性 (公平性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	本町が誘致した大会であり、今大会を本町で開催することにより宿泊等経済効果を生んでいる。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合 評 価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	この大会は、毎年、本町で開催されており野球の春季キャンプと同様に恒例(伝統)となってきた。宿泊者も多く、町内への経済効果もあり、補助を継続していく必要があると考える。	今後の方向性			
			事業の方向性	拡充	維持	縮小
			○			
			廃止	縮小	維持	拡充
			コスト			

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施のため誘致、支援活動が必要 今後も、継続した誘致の推進を 担当課の方針どおり、地場産品販売等も含めて頑張ってもらいたい。 定着した大会であるので、続けていくべき。 町内経済波及効果を考えれば妥当と判断できる。 	外部評価委員会 評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	宮崎県市町村対抗駅伝競走大会			基本目標	生涯スポーツの振興				
担当課(局)・係	社会教育課	社会体育係	記入者	濱本 明俊	評価者	中里 祐二	開始年度	H22	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	宮崎県駅伝の伝統を継承し、ジュニアの育成と駅伝王国宮崎の復活を期し併せて県内各市町村のさらなる交流の促進、県民スポーツの振興を図る。							
	対象(誰を・何を)	高鍋町の代表として出場する選手							
事業の内容	宮崎市を中心としたコースで、市郡の部と町村の部に分かれてレースが行われる。宮崎県を初めとした宮崎県教育委員会・各市町村教育委員会の後援のもと、毎年成人の日に開催される。 平成24年度 町村の部 20チーム中 5位								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		40千円	25年度予算額		40千円	25年度予算額中一般財源の割合				100	%	
支出の内訳	負担金補助交付金	40千円	財源内訳	国庫支出金	千円	事業従事者数	H24	0.01	人	H25	0.01	人
		千円		県支出金	千円	職員人件費		H24			71	千円
		千円		地方債	千円			H25			73	千円
		千円		一般財源	40千円	当事業の金銭的成本	H24			111	千円	
		千円			千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25			113	千円	
補助事業	事業の区分	該当しない			補助事業名	宮崎県市町村対抗駅伝競走大会出場補助金						
	補助対象	高鍋走ろう会			補助金要綱	補助金等の交付に関する規則						
	24年度	補助額	40千円	補助の形態	奨励的補助	H25年度補助額	40千円	終期	平成26年度			
		交付団体の決算額	61千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
決算額に占める割合		66%	※新規事業									
	繰越額	0千円										

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	成績	町村の部で、1位を目指す。									
	2											
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	練習										
	2											
	3											

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
			目標値	実績値	達成率	
成果指標	成績	目標値	1位	1位	1位	
		実績値	5位	5位		
		達成率	%			
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
活動指標	練習	目標値				
		実績値				
		達成率	%			
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

事務事業名	宮崎県市町村対抗駅伝競走大会	担当課(局)	社会教育課
-------	----------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	走ろう会に入会している人だけではなく、小中高生や一般と幅広い年齢層の方々が高鍋町の代表として出場するものであるため、町としては支援をしていく必要がある。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	ジュニア世代について、毎年好成績をあげているため、今後のスポーツの推進の観点から期待したい
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	毎年出場が決まった選手は、大会に向け練習を重ねていることから、スポーツの振興が図られている。
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	高鍋走ろう会が中心となり、練習会を開催したり、大会への送迎を行っている。
自己評価点		17	

※町補助をしている場合のみ記入

公益 平 性 (公益性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	県内すべての市町村が出場する大会で、走ろう会が選考会を開催し出場選手を決定し、地元の名誉のためだけに選手は出場している。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価する項目	今後の方向性	今後の方向性			
			拡充	維持	縮小	廃止
総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見	県内の陸上競技者がそれぞれ市町村の名前を背負って、この大会に参加しているもので、伝統行事となりつつある。選手たちも毎年この大会に照準をあてて練習に余念がない。すべての市町村が参加しており、今後も町として支援していきたい。			○	
	◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等					
			廃止	縮小	維持	拡充
			コスト			

事務事業評価委員会評価欄	・町の代表として出てもらうので、継続した補助はやむを得ないと考える。 ・事業の内容と成果を、しっかり出していくことが必要。	外部評価委員会 評価判定欄	
事業		維持	事業
コスト		維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	姉妹都市スポーツ少年団交流事業補助金		基本目標	青少年健全育成活動の充実					
担当課(局)・係	社会教育課	社会体育係	記入者	濱本 明俊	評価者	中里 祐二	開始年度	H10	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	スポーツや野外活動を通して融和を深め、姉妹都市締結の歴史的背景や地域文化の特性を学び、広い視野を持ったスポーツ少年団のリーダーとしての資質と能力の向上を図る。							
	対象(誰を・何を)	福岡県朝倉市スポーツ少年団と高鍋町スポーツ少年団							
事業の内容	2年に1度開催し、双方の街を交互に訪問し、スポーツや野外活動を通じて交流を行う。 平成25年度は、高鍋町に来町される。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		0千円		25年度予算額		700千円		25年度予算額中一般財源の割合		0		%	
支出の内訳		千円	財源内訳	国庫支出金	千円	事業従事者数	H24	人	H25	0.05	人		
		千円		県支出金	千円	職員人件費		H24				0	千円
		千円		地方債	千円			H25				364	千円
		千円		一般財源	千円	当事業の金銭的成本		H24				0	千円
		千円			千円	(職員人件費+予算(決算)額)		H25				1,064	千円
補助事業	事業の区分	該当しない			補助事業名	姉妹都市スポーツ少年団交流事業補助金							
	補助対象	高鍋町スポーツ少年団			補助金要綱	補助金等の交付に関する規則							
	24年度	補助額	0千円		補助の形態	奨励的補助	H25年度補助額	700千円		終期	平成25年度		
		交付団体の決算額	0千円		H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
決算額に占める割合		#DIV/0!		%	※2年に1度								
	繰越額	0千円											

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	交流事業の開催	交流事業開催による、姉妹都市の子供たちの交流機会を与える									
	2											
	3											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	説明会の開催数	交流事業の目的の説明や手法を説明。									
	2											
	3											

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	交流事業の開催	目標値	1	0	1	
		実績値	1	0		
		達成率	%	100.0%		
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
活動指標	説明会の開催数	目標値	3	0	3	
		実績値	3	0		
		達成率	%	100.0%		
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			

事務事業名	姉妹都市スポーツ少年団交流事業補助金	担当課(局)	社会教育課
-------	--------------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	朝倉市との合同の事業であり、双方の地域を子供たちが学びあう機会というものは、他の事業にはないため必要と考える。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	毎回参加者からは、とてもよい交流ができたとの声があがっている。
	◎すでに目的は達成されていないか	2	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	姉妹都市の意味を知ることは、このような行事がない限りなかなか知りえることがなく、将来を担う子供たちにはお金に代え難い経験になると考える。
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	行事を行う上で、保護者の協力がとても重要であり、毎回多くの保護者と協働で行事を行っている。
自己評価点		18	

※町補助をしている場合のみ記入

公益 平 性 (公益性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	2	高鍋町スポーツ少年団は、各単位団に募集を行い多くの参加希望が上がってくる。
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	1	
	◎町民の理解が得られる事業であるか	1	
合計(最高4点)		4	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価する項目	今後の方向性	今後の方向性			
			拡充	維持	縮小	廃止
総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見	平成10年から始まっている事業で、「姉妹都市文化交流」が大人の交流であるのに対して、これは、子どもたちの交流である。子どもたちから姉妹都市を意識できるもので、毎回、参加者からの感想も良い評価である。			○	
	◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等					
			廃止	縮小	維持	拡充
			コスト			

事務事業評価委員会評価欄	・補助金が終期を迎えるが、次年度以降も必要と考える。 ・終期設定を見直すべき(4年周期) ・姉妹都市の事業である。続けていくべき。	外部評価委員会 評価判定欄	
事業		維持	事業
コスト		維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	古文書・古記録解読・判読事業		基本目標	図書館の充実					
担当課(局)・係	社会教育課	図書館係	記入者	江藤真二	評価者	中里祐二	開始年度	S53	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	当館に保存してある古文書・古記録および、藩政時代の教科書を解読・判読する。							
	対象(誰を・何を)	古文書・古記録							
事業の内容	町立高鍋図書館が所蔵する古文書・古記録の中から高鍋の歴史を解明する身近な資料より解読・判読を行う。 選別については、解読・判読を依頼している宮崎県文書センターの永井哲雄先生の指導により年間1冊から2冊を 解読判読している。								
事業の根拠法令・要綱等		特になし							

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		60	千円	25年度予算額		60	千円	25年度予算額中一般財源の割合				100	%	
支出の内訳	報償費	60	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24	0.33	人	H25	0.33	人
			千円		県支出金		千円	職員人件費	H24	2,358				千円
			千円		地方債		千円		H25	2,400				千円
			千円		一般財源	60	千円		当事業の金銭的成本	H24	2,418			
			千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25	2,460				千円
補助事業	事業の区分	該当しない					補助事業名							
	補助対象						補助金要綱							
	24年度	補助額		千円	補助の形態		H25年度補助額		千円	終期				
		交付団体の決算額		千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等									
決算額に占める割合			%											
	繰越額		千円											

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名		この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	近世における高鍋藩関係の資料の充実	解読された資料から近世の武士の生活様式が身近な出来事のでわかることがあった。									
	2											
活動指標	活動指標名		この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入									
	1	解読判読および資料の解説	黒水家文書 解説者 宮崎県文書センター 永井哲雄先生。									
	2											
	3											

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	近世における高鍋藩関係の資料の充実	目標値	278	278	278	
		実績値	145	146		
		達成率	%	52.2%	52.5%	
	目標値					
	実績値					
	達成率	%				
活動指標	解読判読および資料の解説	目標値	2	2	2	
		実績値	1	1		
		達成率	%	50.0%	50.0%	
	目標値					
	実績値					
	達成率	%				

事務事業名	古文書・古記録解読・判読事業	担当課(局)	社会教育課
-------	----------------	--------	-------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	町立高鍋図書館が所蔵する資料から、高鍋の歴史を解明する大変重要な図書館独自の事業である。解読・判読することにより、新しい歴史的事実も解明できると思われる。今までの解読・判読したものを住民に公開することで、地域の歴史に触れ地元愛も深まるとされる。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	特別な研究者の閲覧が多いが、このような研究者の成果を提供してもらうことで、町民にとっては身近な資料となり、歴史認識を深めることができていると思われる。
	◎すでに目的は達成されていないか	2	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1	解読を宮崎県文書センターの永井哲雄先生に依頼していることにより、先生自身が高鍋在住であることと、自主団体である「歴史を読み解く会」の講師として貢献していただいている関係上、非常にご協力をいただいている。解読に限らず古文書の保存保管に関することなども貴重な助言をいただいている。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	1	自主団体である「歴史を読み解く会」で、研究資料として解読されている資料を寄贈を受け町民が利用していけるよう整理していく予定である。
自己評価点		15	

※町補助をしている場合のみ記入

公益性 (公平性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること		
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか		
	◎町民の理解が得られる事業であるか		
合計(最高4点)		0	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	専門的な知識を要することから、なかなか解読が進まないが、自主団体である。「歴史を読み解く会」などを活用するなどして少しずつでも進めていくべき事業である。	今後の方向性			
			事業の方向性	拡充	維持	縮小
			○			
			廃止	縮小	維持	拡充
			コスト			

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者の育成も必要と感じる ・早急に事業を進めることは理解できるが、費用対効果等を勘案すると現状維持が妥当と判断 ・目標の達成に努めてほしい 	外部評価委員会評価判定欄
事業	維持	事業
コスト	維持	コスト
<ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかるが、つづけていくことがだいじ。 ・事業拡充するには後継者育成が不可欠であるが、専門的知識を有することが必要となるだけに、コスト維持のまま事業拡充は厳しいと思う。 		

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	郷土作家シリーズ事業		基本目標	美術館の充実					
担当課(局)・係	社会教育課(美術館)	総務学芸係	記入者	中野恵一	評価者	中里祐二	開始年度	H24	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	地域の芸術文化の発信地としての役割を果たす							
	対象(誰を・何を)	町内外を問わず、広く県民に対し							
事業の内容	郷土作家シリーズ⑨「石井琴月楽しい書展」を開催。象形文字を書で表すことにより文字本来の力強さを表現した作品42点を展示し郷土出身作家の活動を、町内外問わず広く県民に紹介。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		129	千円	25年度予算額		218	千円	25年度予算額中一般財源の割合		100	%			
支出の内訳	作品借用謝礼	30	千円	財源内訳	国庫支出金		千円	事業従事者数	H24	0.16	人	H25		人
	消耗品	18	千円		県支出金		千円	職員人件費	H24	1,143			千円	
	印刷製本	81	千円		地方債		千円		H25	0			千円	
	運送料		千円		一般財源	218	千円	当事業の金銭的成本	H24	1,272			千円	
	宅配料		千円				千円	(職員人件費+予算(決算)額)	H25	218			千円	
補助事業	事業の区分	該当しない				補助事業名								
	補助対象					補助金要綱								
	24年度	補助額		千円	補助の形態		H25年度補助額		千円	終期				
		交付団体の決算額		千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等									
決算額に占める割合			%											
	繰越額		千円											

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入	
	1 観覧者数	観覧者数の増加で、より多くの人に芸術に親しんでもらう。	
	2 観覧料収入	同展(無料)開催期間中の常設展観覧料収入	
	3		
活動指標	活動指標名	この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入	
	1 広報活動数	県内の美術館や各報道機関ヘチラシ・ポスター等の配布	
	2 関連イベント開催数	展覧会に伴う講演会等の開催	
	3 取材依頼数	新聞記事やテレビ等での報道依頼	

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項	
成果指標	観覧者数	目標値	1,000	1,000	800		
		実績値	962	595			
		達成率	96.2%	59.5%			
	観覧料収入	目標値	回	21,000	21,000		10,000
		実績値		10,390	9,016		
		達成率	%	49.5%	42.9%		
活動指標	広報活動数	目標値	回	2	2	1	
		実績値		1	1		
		達成率	%	50.0%	50.0%		
	関連イベント開催数	目標値	回	1	1	1	
		実績値		0	0		
		達成率	%	0.0%	0.0%		
	取材依頼数	目標値	回	1	1	1	
		実績値		1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%		

事務事業名	郷土作家シリーズ事業	担当課(局)	社会教育課(美術館)
-------	------------	--------	------------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数		評価の理由
		自己評価		
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2		郷土にゆかりのある芸術作家の成果発表、活動紹介の場として広く発信していく必要がある。今後とも多用なジャンルの作家を紹介したいが、郷土出身に関連がある作家等の発掘を進めたい。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2		
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2		
	◎事業廃止による影響があるのか	1		
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	0		規模の小さな町立美術館ならではの事業であり、町民にも親しみやすい展覧会である。
	◎すでに目的は達成されていないか	1		
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1		例年、無償で作品を借用し、郷土作家の作品展と言うことで観覧料無料で開催している展覧会である。
	◎費用対効果が十分に認められるか	1		
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	1		
自己評価点		11		

※町補助をしている場合のみ記入

公益性 (公平性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること			
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか			
	◎町民の理解が得られる事業であるか			
合計(最高4点)		0		

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	地元出身者の展示会ということで地元では関心の高さもあり、郷土作家シリーズは集客性が高く、それまで美術に興味が無かった方々が美術に対し関心を持つ効果もある。高鍋町出身者だけではなく、高鍋町内の学校を卒業した町外出身者を郷土作家とみなす事で、町内だけではなく町外からの集客も期待できるので、今後は、高鍋にゆかりのある優れた作家をいかに探し出すかが重要である。	今後の方向性			
			事業の方向性	拡充	維持	縮小
			廃止	縮小	維持	拡充
			コスト			

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 作家数などから今後も継続してやっていける事業なのか？趣旨は大変良いと思うので、できるだけ長く継続してもらいたい。 担当課の方針どおり継続が妥当 西都児湯管内の人も対象にしてはどうか。 郷土作家の案内に力を入れて、集客力を高めることが大事と思う。 	外部評価委員会 評価判定欄	
事業		維持	事業
コスト		維持	コスト

平成25年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋高校美術・書道部展事業		基本目標	美術館の充実					
担当課(局)・係	社会教育課(美術館)	総務学芸係	記入者	中野恵一	評価者	中里祐二	開始年度	H24	年度
事業の目的	意図・目的 (どうする)	地域の芸術文化の発信地としての役割を果たす							
	対象(誰を・何を)	町内外を問わず、広く県民に対して							
事業の内容	高鍋高校美術部・書道部及び芸術選択生の作品380点を展示。								
事業の根拠法令・要綱等									

◎前年度決算額及び今年度予算額

24年度決算額		0千円		25年度予算額		0千円		25年度予算額中一般財源の割合			%	
支出の内訳		千円	財源内訳	国庫支出金	千円	事業従事者数	H24	0.04	人	H25		人
		千円		県支出金	千円	職員人件費		H24			286	千円
		千円		地方債	千円			H25			0	千円
		千円		一般財源	0千円	当事業の金銭的成本		H24			286	千円
		千円			千円	(職員人件費+予算(決算)額)		H25			0	千円
補助事業	事業の区分	該当しない			補助事業名							
	補助対象				補助金要綱							
	24年度	補助額	千円	補助の形態		H25年度補助額	千円	終期				
		交付団体の決算額	千円	H24年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等								
決算額に占める割合		%										
	繰越額	千円										

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	この指標で評価される成果の具体的内容および、指標の算出方法を記入	
	1 観覧者数	観覧者数の増加で、より多くの人に芸術に親しんでもらう。	
	2		
	3		
活動指標	活動指標名	この指標で評価される活動の具体的内容および、指標の算出方法を記入	
	1 広報活動数	県内の美術館や各報道機関へチラシ・ポスター等の配布	
	2 取材依頼数	新聞記事やテレビ等での報道依頼	
	3		

◎目標達成状況

	指標名	単位	23年度	24年度	25年度	特記事項
成果指標	観覧者数	目標値	500	500	500	
		実績値	617	605		
		達成率	%	123.4%	121.0%	
		目標値				
		実績値				
		達成率	%			
活動指標	広報活動数	目標値	1	1	1	
		実績値	1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	取材依頼数	目標値	1	1	1	
		実績値	1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	目標値					
	実績値					
	達成率	%				

事務事業名	高鍋高校美術・書道部展事業	担当課(局)	社会教育課(美術館)
-------	---------------	--------	------------

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数	評価の理由
		自己評価	
妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか	2	地元高校の芸術専攻生徒の成果発表の場となっている。情操教育に寄与し、将来的には入館や自主的な美術館使用に繋がっていくと思われる。
	◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	
	◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2	
	◎事業廃止による影響があるのか	2	
有効性	◎目標に対して成果は得られているか	2	高鍋高校生と保護者の観覧が大半であるが、一般の観覧者も増加傾向にある。現状で展示室を全て使うが、同じ町内の農業高校の作品発表の場を模索したい。
	◎すでに目的は達成されていないか	1	
効率性	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1	多くの美術部員・書道部員が展示・撤収作業を行うため、短時間の作業時間で済む。
	◎費用対効果が十分に認められるか	2	
協働性	◎ボランティア・NPOなど町民との協働ができるか	2	展示考案、展示・撤収作業などすべて高校生(美術部・書道部)が行い、職員が補助を行っている。
自己評価点		16	

※町補助をしている場合のみ記入

公益性 (公平性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること		
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか		
	◎町民の理解が得られる事業であるか		
合計(最高4点)		0	

その他	
-----	--

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	評価する項目	今後の方向性	今後の方向性			
			拡充	維持	縮小	廃止
総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	地元高校生の発表の場であり、生徒だけでなく親・祖父母の来館も多い。さらに充実した展覧会となるよう、高鍋農業高校との連携も視野に入れて事業を進めていきたい。		○		
			事業の方向性	廃止	縮小	維持
			コスト			

事務事業評価委員会評価欄	<ul style="list-style-type: none"> 経費も特に掛かっていないので、対象外で良いかと思う 農業高校生の出展に配慮すべき。 農業高校もやれたらいいのではないかと。 	外部評価委員会 評価判定欄	
事業		維持	事業
コスト		維持	コスト